

Scoop

2004年 9月

RAV4

トヨタ

05年東京ショー出品に間に合うか？ NEW RAV4のアグレッシブデザイン

シンプルでも力強い標準ボディ

[zoom](#)

特徴的な切れ長ヘッドランプを持つ3代目RAV4。ボリュームたっぷりのボディ側面と隆起したボンネットフードにより、標準ボディ仕様でも十分に力強いフォルムが作り出されている。

現行車ベースのテストカーも出走

[zoom](#)

テストコースでは現行車ベースの先行試作も走っている。意外に軽擬装なのは、ダミーボディだからか。

ライト級SUVの先駆車として名をはせたRAV4の3代目がデビューに向けて水面下で開発されている。6月号でボディサイズ拡大および3列シート化を報じたが、ついに今回、そのアグレッシブ・デザインをナマ撮りした。シンプルで親しみやすかった初代や、一步踏み出してワイド化が図られた現行2代目と比べると、そのボリューム感・迫力は比べ物にならない。

では、外観のデザイン要素を具体的にチェックしていこう。もっとも目を引くのが、やはりそのヘッドランプだ。大きなツリ目を用いてきたここ数年のトヨタ・デザインから脱却、新型RAV4にはスポーティな印象が強い切れ長ランプが起用される。そのクールな表情は日本国内だけでなく、北米やヨーロッパでも高い人気を集めそうだ。また、ランプ間に置かれるラジエターグリルはRAV4らしい台形シルエットを踏襲。大きく盛り上がったボンネットフードから続くライン上に配され、押し出し感の強い顔つきを作り出している。ハイラックス・サーフの弟分とも言えそうだ。

ボディサイドにも注目したい。とくにショルダー部分は張り出しが強く、現行モデルよりボリューム感が増しているのがわかるはずだ。フロントマスクの力強さと相まって、「もはやライト級を卒業」と言っても過言ではなさそう。実際、3代目へのバトンタッチを機に、3列シート化が実現して乗用定員が増えるのは既報のとおりだ。

写真の都合上、残念ながらリアクォーター部分は見えないが、ここには台形ピラーが隠されているに違いない。イプサムやカルディナ、オーパなどに見られる、トヨタお得意のデザイン処理だ。

現行モデル同様、3代目RAV4にもワイドボディ仕様がラインナップされる。下に掲載したのがその勇姿で、標準仕様のボディに別体オーバーフェンダーと幅広タイヤが加えられ、迫力にいっそう磨きがかかる。もちろん、ワイドタイヤのおかげで高い走行安定性も得られるだろう。

搭載エンジンは2リットル直4に代わり、すでに輸出仕様に設定されている2.4リットル直4が国内向けにも設定されるとの見方が強い。その理由は3列シート化によって乗用定員が増え、車両総重量も増加するためだ。これを受けてクルーガーとRAV4の差が縮まるため、過去に本誌が予想したとおり、07年初夏をメドにクルーガーは廃止される方向で検討されているという。

RAV4は国内よりも北米とヨーロッパで販売台数を伸ばしており、現行モデルも海外ショーで初披露されるなど、常に海の向こうを重視してきた。ところが、3代目は05年東京ショーでの公開を目標に開発が進められているらしい。ただし、スケジュールに遅れが生じているとのウワサもあり、ショー出品が危ぶまれている。はたして、そのアグレッシブな容姿が1年後に幕張メッセで拝めるのか、気になるところだ。

オーバーフェンダー付 ワイドボディ



[zoom](#)

別体オーバーフェンダーと幅広タイヤがセット装着され、踏ん張り感が強調されるワイドボディ仕様。ワンクラス上のSUVに引けを取らない迫力が与えられ、全世界で人気を呼びそうだ。



[zoom](#)

個性的なヘッドランプは6月号掲載後に若干デザイン変更されたようだ。

現行モデル



[zoom](#)



許可なく複製転載することは法律に禁じます。

COPYRIGHT © SATEL-SHOBOU, INC & LOCKHOUSE, INC. ALL RIGHTS RESERVED





許可無く複製転載する事は法律に禁じます。
COPYRIGHT (C) SATEL-SHOPPING, INC & CROCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED



許可無く複製転載する事は法律に禁じます。
COPYRIGHT (C) SANEI-SHOBOU, INC & LOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED



許可なく複製転載する事は法律に禁じます。
COPYRIGHT (C) SANBI-SHOBOU, INC & MOCKHOUSE, INC ALL RIGHTS RESERVED